

3 外国の地名・人名は、慣用の固定したものは、それに従って書く。

4 外国の地名・人名は、発音しやすいように書く。

また、「備考」として次を示している。

外国の地名・人名の称え方・書き方を整理統一するには、称え方は原則としてその国の称え方によるのがよいことは言うまでもない。しかし、すでに慣用の久しいものは、これを認めて行かなければならない。ただ、それをどの程度まで認めるかということに考慮の余地がある。「イギリス」「ギリシア」「デンマーク」「レントゲン」などのごときは、原語、原音を離れたものではあるが、すでに広く用い慣れているので、この称え方を認める。「レントゲン」のごときは、同時に原語、原音による「レンチェン」という称え方が一部に行われているが、慣用の広い「レントゲン」の方を取る。

原音に近く書き表わすとしても、それに用いるかなは、一般の国民に発音しやすいものにとどめる。また、「イ」「エ」「オ」、「ジ」「ズ」と同じ音の「ヰ」「ヱ」「ヲ」、「ヂ」「ヅ」などのかなは用いることをやめ、精密に書き表わすときには、「ウィ」「ウェ」「ウォ」、「ディ」「ドウ」とする。「ヴ」は従来かなり広く用いているので、必要に応じて採用する。

撥音^{はつ}を書き表わすとき、「オリムポス」「ゼムメリング」などのごとく、「ム」を用いる書き方も行われているが、この案では、「ム」は用いないで、「ン」を用いる。

長音を書き表わすとき、従来「ヨーロッパ」「ヨオロッパ」、「ソシュール」「ソシュウル」などが行われているが、最も普通に広く行われている長音符号「ー」を採用することとする。したがって、「ガレリウス」「コメニウス」などと書けば、「リウ」「ニウ」は、分けて発音する。

促音を書き表わすときは、慣用に従って右側下に「ッ」を書くこととし、「ツ」と区別する。

この書き方は、漢字平がな交り文における書き方である。(原文は歴史的仮名遣い。)

外来語の表記（昭和 29） 国語審議会表記部会長報告 → 参考資料 2 参照

国語審議会表記部会における審議の結果を昭和 29 年 3 月 15 日の国語審議会総会に報告したもの。表記部会は国語審議会の建議とすることを求めたが、決議には至らなかった。このため部会報告の扱いにとどまったものの、平成 3 年の内閣告示実施まで、公用文、学校教育をはじめ、一般社会における外来語の表記において参考とされ、実質的なよりどころとして用いられた面がある。

なお、「まえがき」では、「外国の地名・人名の書き方については、別に考慮する」とし、その後、文部省は、昭和 33 年に「地名の呼び方と書き方〈社会科手びき書〉」を発表している。